



Cisco TelePresence Management Suite 15.7

ソフトウェア リリース ノート

初版発行日 : 2020 年 9 月

はじめに

変更履歴

表 1 ソフトウェア リリース ノートの変更履歴

日付	変更内容	理由
2018 年 7 月	ソフトウェアのリリース	Cisco TMS 15.7

製品に関する資料

製品のインストール、初期設定、および動作については、次のドキュメントを参照してください。

- [Cisco TelePresence Management Suite インストールおよびアップグレード ガイド](#)
- [Cisco TelePresence Management Suite 管理者ガイド](#)
- [Cisco TMS 拡張機能導入ガイド](#)

15.7 の新機能

Cisco TMS での .NET Framework 4.7 のサポート

Cisco TMS は .NET Framework 4.7 をサポートするようになりました。.NET Framework が 4.7 より前のバージョンの場合は、Cisco TMS をインストールできません。また、相互導入モデルでは、Cisco TMS 15.7 と Cisco TMSXE 5.7 を同じサーバ上の共通の場所に配置することもできます。

Cisco Meeting Server のテンプレートのサポート

Cisco TMS では、会議テンプレートに Cisco Meeting Server をブリッジとして追加できるようになりました。

Cisco TMS BAPI の会議参加情報

Cisco TMS は、会議オブジェクトを返すすべての BAPI 要求に回答して JoinUri および JoinUrl 情報を送信します。Join Uri と JoinUrl の値には、参加者が会議への参加に使用する URI と URL がそれぞれ含まれています。

注：

- JoinUri は、ブリッジが会議に関連している場合にのみ入力されます。ブリッジが会議に関連していない場合、この URI 値は NULL です。
- JoinUrl は、Cisco Meeting Server が会議に関連している場合にのみ入力されます。Cisco Meeting Server が会議に関連していないか、その Cisco Meeting Server 用に WebBridge が設定されていない場合、この URL の値は NULL です。
- どちらの機能も、API クライアント バージョン 20 以上で動作します。

Cisco Meeting Server の DTMF サポートを使用した参加者テンプレート

Cisco TMS は、Cisco Meeting Server に DTMF トーンを送信します。Cisco Meeting Server によってダイヤルアウトされた参加者に DTMF トーンを送信するには、DTMF トーンが設定された参加者テンプレートを使用して参加者を会議に追加する必要があります。

注：この機能は、外部の参加者（Cisco TMS で管理されていない参加者）に対してのみサポートされています。この機能は Cisco Meeting Server 2.4 でのみ使用可能です。

会議の診断の日付選択オプション

Cisco TMS では、会議の診断の範囲とする期間を選択できるようになりました。デフォルトでは、選択された開始日から 7 日後に診断が実行されます。編集できるのは開始日のみで、終了日を編集することはできません。

この機能は、**[管理ツール (Administrative Tools)] > [診断 (Diagnostics)] > [会議の診断 (Conference Diagnostics)]** で管理者が設定できます。

Cisco TMS Log Collection Utility

Cisco TMS Log Collection Utility はスタンドアロン ツールで、Cisco TMS/TMSXE/TMSPE ログのレベルをデバッグ モードに設定でき、ログを収集することもできます。

このツールは、サーバにインストールされているコンポーネントに基づいて次のオプションを提供します。

- **TMSXE ログのエクスポート**を使用して Cisco TMSXE ログを収集。
- **TMSXE ログのエクスポート**を使用。
- **TMS ログの取得**を使用して Cisco TMS/TMSPE ログを収集。

注：このツールは、Cisco TMS バージョン 15.0 から使用できます。

@meet カレンダーコネクタのスケジュール設定

この機能は、Cisco TMS との統合を提供する Webex Hybrid カレンダーサービスの今後のリリースで利用できます。

Conferencing Connector

Conferencing Connector (CC) は、Cisco Webex Teams Cloud から Cisco Expressway - C にインストール、およびアップグレードされるオンプレミス コンポーネントです。オンプレミスのコネクタはカレンダー コネクタの一部であり、@meet ミーティング アポイントメントに対応する @meet スケジュール設定機能を主に処理しています。CC は、Webex Teams (クラウド) を介したオンプレミス リソースのスケジュール設定を可能にします。

Cisco TMS での CC ミーティングのテンプレートとして編集、削除、拒否、作成することはできません。編集または削除できるのは、開催者の外部カレンダー アプリケーション (Google カレンダーまたは Office 365 など) のみです。Conferencing Connector ミーティングのみを表示することができ、Cisco TMS ではその詳細が表示されます。

Conferencing Connector では、次の機能が追加されました。

- エンドポイントの会議室メールボックス マッピング
- Webex Meeting ステータス

@meet スケジュール設定

カレンダーコネクタの設定情報については、間もなく掲載される Conferencing Connector の設定に関するドキュメントを参照してください。

@meet スケジュール設定をサポートするための Cisco TMS 機能

エンドポイントの会議室メールボックス マッピング

エンドポイントへの電子メール アドレスの割り当て

Cisco TMS では、エンドポイントのメール アドレスを追加、更新、または削除できます。電子メール アドレス オプションは、カレンダーコネクタを使用して @meet スケジュール設定を行うために、Cisco TMS のエンドポイントに電子メール アドレスをマッピングするために使用します。Cisco TMS は、内部で、外部カレンダー アプリケーションの会議室への電子メール アドレスマッピングを使用して、会議のスケジュール設定時にエンドポイントを識別します。これは「@meet スケジュール設定機能」にのみ使用され、Cisco TMSXE のシステム設定に代わるものではありません。

[TMS Web インターフェイス (TMS web interface)]> [システム (Systems)]> [ナビゲータ (Navigator)]> [エンドポイントの検索 (Find endpoint)]> [設定 (Settings)]> [設定の編集 (Edit Settings)] から、電子メール アドレスの追加、更新、削除を行うことができます。

注：エンドポイントには、一意のメールボックス アドレスがマッピングされている必要があります。

エンドポイントへの一括電子メール アドレスマッピング

Cisco TMS では CSV 形式ファイルでメール アドレスを一括でエクスポートまたはインポートして会議室電子メール アドレスをマッピングできます。グループでは会議室メール一括マッピングを有効にする必要があります。また、そのグループ内のすべてのユーザがこのアクティビティを実行できます。

[TMS ウェブ インターフェイス (TMS web interface)]> [システム (Systems)]> [会議室メールの一括マッピング (Bulk Room Email Mapping)] から電子メール アドレス をエクスポートまたはインポートできます。

Webex Meeting ステータス

Cisco TMS は、Webex ミーティングを CMR Hybrid Webex として [会議の一覧 (List Conferences)] ページで表示するようになりました。これは Webex が会議に関連している場合に適用されます。これまでは、Webex ミーティングが予約されている場合、「予約済み (Booked) 」と表示されていました。今後は、Webex ミーティングは「CMR Hybrid Webex」と表示されます。また、Webex カラムの名前が「外部サービス (External Service) 」に変更されました。[ログのエクスポート (Export Log)]と [詳細ログのエクスポート (Export Details Log)]は、最新の変更で更新されます。

Cisco Webex Room Kit Pro

Cisco TMS は、CE 9.x ソフトウェアで Cisco Webex Room Kit Pro エンドポイントをサポートするようになりました。

以前のリリースの機能

以前のリリースの新機能の詳細については、次のリンクを参照してください。

[Cisco TMS 15.6.1](#)
[Cisco TMS 15.6](#)
[Cisco TMS 15.5](#)
[Cisco TMS 15.4](#)
[Cisco TMS 15.3](#)
[Cisco TMS15.2.1](#)
[Cisco TMS 15.1](#)
[Cisco TMS 15.0](#)
[Cisco TMS 14.6.2](#)
[Cisco TMS 14.6.1](#)
[Cisco TMS 14.6](#)

解決済みおよび未解決の問題

次のリンクをクリックして、このリリースで解決済みの問題と未解決の問題に関する最新情報をご覧ください。

https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283688292&rls=15.7&sb=anfr&bt=custV

Cisco Bug Search Tool にログインした後にブラウザの表示を更新する必要があります。

Meltdown と Spectre の脆弱性

パフォーマンス テストは、Cisco TMS と Microsoft SQL Server 2016 が同じマシン上でホストされている Windows Server 2016 の Cisco TMS 15.7 で正常に実行されています。今回のテストで使用した ESXi には、VMWare ESXi 6.5 の Meltdown および Spectre の脆弱性に対するパッチ (ESXi650-201803401-BG および ESXi650-201803402-BG) が適用されています。投機的な実行を行うサイドチャネルの脆弱性から保護するための [Windows Server のガイダンス](#) 記事に記載されている、推奨される対処法に従っています。パフォーマンス テストの結果、Waredown および Spectre の脆弱性に対応するためリリースされた VMWare ESXi 6.5 のパッチが、Cisco TMS アプリケーションに影響を与える可能性はありません。

制限事項

機能	制限事項
サポートされるタイムゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ■ Cisco TMS サーバのタイムゾーンを変更することはできません。 ■ DST の日付やタイム ゾーンのリージョンの変更など、国際タイムゾーンの修正は、Microsoft Windows の更新プログラムによって Cisco TMS サーバと Cisco TMS で自動的に更新されます。Cisco TelePresence TE または TC ソフトウェアを実行しているエンドポイントについても同じです。これらのエンドポイントには、手動で定義されたタイム ゾーンのリストがあるため、DST 日付またはタイムゾーン リージョンの変更は反映されません。これにより、直接管理されているエンドポイントでタイムゾーンの不一致エラーが発生する可能性があります。スケジューリングは影響を受けませんが、Cisco TMS はタイムゾーン データの読み取り/書き込みに失敗する可能性があります。
TelePresence Conductor のスケジューリング	<ul style="list-style-type: none"> ■ TelePresence Conductor は、会議と会議の間でリソースを解放するまでに最大 30 秒待機する場合があります。そのため、参加者が会議への参加と退席を繰り返すと、連続する会議の着信や発信が拒否されたり、使用率が急上昇したりする可能性があります。バグツールキットの識別子: CSCuf34880。この制限は、予定されている TelePresence Conductor および Cisco TMS のリリースで対処されます。 ■ TelePresence Conductor の複数クラスター ノードを Cisco TMS に追加できますが、スケジューリングにはプライマリ TelePresence Conductor のみを使用できます。 ■ Cisco TMSPE によって生成された Collaboration Meeting Rooms のスケジューリングはサポートされていません。
TSP の音声と会議の拡張	WebEx によって 2 つの会議が同じ TSP 音声番号に割り当てられている場合は、Cisco TMS はそのことを認識せずに会議を拡張するかどうかを決定します。それにより、2 つの会議で音声参加者が同じになる可能性があります。

機能	制限事項
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ FindMe と Multiway を使用した会議では、会議制御センターとレポートで重複が発生する可能性があります。 ■ 参加者が保留になっているか、または転送された会議は、会議制御センターとレポートで重複が発生する可能性があります。 ■ 会議制御センターとグラフィカルモニタは、Google Chrome バージョン 42 以降、Firefox 52 以降、Opera、Microsoft Edge では機能しません。Google Chrome と Firefox の今後のリリースで Netscape プラグイン アプリケーション プログラミング インターフェイス (NPAPI) がまったくサポートされなくなるまで、会議制御センターとグラフィカル モニタを開くために次のオプションを試すことができます。 <ul style="list-style-type: none"> - Internet Explorer バージョン 10 または 11 を使用する。 - Firefox のデフォルト設定を上書きして、Firefox 52 (32 ビット) でのみ NPAPI プラグイン サポートを再度有効にする。 <ul style="list-style-type: none"> a Firefox 52 (32 ビット) でのみ NPAPI プラグインを有効にするには、about: config 設定を使用します。新しいブール文字列 plugin.load_flash_only を追加して、false に設定します。 b ブラウザを再起動します。 - Firefox 52 (32 ビット) ESR (延長サポート版) のみをダウンロードして使用します。NPAPI プラグインは 2018 年 3 月まで機能します。 注：Firefox 52 (32 ビット) ESR (延長サポート版) がインストールされている場合は、他のスタンドアロンの Firefox ソフトウェア バージョンがインストールされていないことを確認してください。 - Google Chrome で IE Tab 拡張機能を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> a Chrome (https://www.ietab.net/) 内で INTERNET EXPLORER (IE)を実行します。 b IE Tab 拡張機能が Google Chrome にインストールされている場合は、Google Chrome のアドレスバーの横に表示されている IE アイコンをクリックできます。 ■ 参加者のスナップショットとイベント ログ データの自動更新 (会議制御センターの機能) は、どのバージョンの Google Chrome でも機能しません。 ■ ミーティングの詳細は、次の場合に会議制御センターに段階的に表示されます。[通信セキュリティ (Communication Security)]が[高 (High)]に設定されている場合です ([TMS ツール (TMS Tools)] > [セキュリティ設定 (Security Settings)] > [トランスポート層セキュリティのオプション (Transport Layer Security Options)]) 。 ■ パフォーマンスを向上させるには、次のいずれかを実行することをお勧めします。 <ul style="list-style-type: none"> - [TMS ツール (TMS Tools)] > [セキュリティ設定 (Security Settings)] > [トランスポート層セキュリティのオプション (Transport Layer Security Options)] で、[通信セキュリティ (Communication Security)] のセキュリティ モードとして [中 (Medium)] または [中 - 高 (Medium-High)] を選択します。 - 会議制御センターのユーザ数を [通信セキュリティ (Communication Security)] が [高 (High)] に設定されている場合は減らします。

機能	制限事項
WebEx	<ul style="list-style-type: none"> ■ CMR Hybrid に対する高度な定期的パターンはサポートされません。[新しい会議 (New Conference)] ページから予約する場合は、Webex を含めてから、サポートされている定期的なパターンのみが表示されるように定期的なパターンを指定してください。 ■ 1 つのインスタンスが進行中に定例会議シリーズを削除すると、Cisco TMS では会議が削除されますが、WebEx では削除されません。これは、WebEx が進行中の会議に変更を許可しないためです。これには削除が含まれます。 ■ Cisco TMS ツールで [通信セキュリティ (Communication Security)] のオプション [中 - 高 (Medium-High)] または [高 (High)] を選択すると、Cisco TMS の一部またはすべての機能が失われます。 ■ 会議が WebEx で予約されている場合、後で Cisco TMS で会議の所有者を変更すると、会議の所有者の詳細は Cisco TMS でのみ反映され WebEx では反映されなくなります。さらに、Cisco TMS で会議を更新しようとする、エラーが発生する可能性があります。
コラボレーション エッジ	Cisco TMS は現在コラボレーション エッジの背後にあるデバイスをサポートしていません。
Expressway	Cisco Expressway-C と Cisco Expressway-E は、システム タイプ TANDBERG VCS を使用して Cisco TMS に表示されます。
[システムタイプ (System Type)] フィールド	以前に TANDBERG がシステム タイプに含まれていた一部のシステムが、Cisco TMS に引き続き TANDBERG として表示されることがあります。これはシステムの API からシステム タイプを直接読み取る Cisco TMS に主に基づいています。API を介して使用できなかったシステム タイプが追加されることがあります。そのため、その名前とシステム タイプ TANDBERG が表示され続けることがあります。
下部バナー	Cisco TMS ツールで下部バナーが有効になっている場合、Internet Explorer 10 で Cisco TMS Web アプリケーションを使用して、強化されたセキュリティ設定を有効にすると、ウィンドウの下部にあるリンクとボタンが無効になります。
Cisco TMSPE が Cisco TMS と通信できない	Cisco TMSPE が Cisco TMS と通信できないのは、Cisco TMS 15.6 以降のバージョンでセキュリティ モードが高になっている場合です。 この制限は、Cisco TMSPE の将来のリリースで対処されます。
TelePresence Conductor のクラスタリング	<ul style="list-style-type: none"> ■ プライマリ TelePresence Conductor が停止した場合に、エイリアスに対するフェールオーバーはサポートされません。プライマリ TelePresence Conductor が停止しているときに管理者がピア TelePresence Conductor の一部のエイリアスを変更した場合、プライマリ ノードがアクティブになるまで、ピアの TelePresence Conductor のエイリアスを TMS で更新することはできません。 ■ このリリースでは、プライマリ TelePresence Conductor からのフィードバックのみが Cisco TMS によって処理されます。これは、プライマリ TelePresence Conductor が停止している場合に、アドホック解決が影響を受ける可能性があることを意味します。 ■ このリリースでは、スケジューリング、ルーティング、およびロード バランシングのためのクラスタ化された TelePresence Conductor のサポートはありません。

IX エンドポイント上の電話帳	<p>IX エンドポイントを追加すると、Cisco TMS はソフトウェアバージョンを検出できません。</p> <p>[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] の下にある IX エンドポイント向けの [電話帳] タブは、バージョン 8.2 に対してのみ設定できます。8.2 より古いバージョンを追加する場合、IX エンドポイントでは Cisco TMS の電話帳データを取得できません。</p> <p>電話帳を設定してエンドポイントから使用するには、IX バージョン 8.2 を追加する必要があります。</p>
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

機能	制限事項
<p>仮想マシンでは、次の製品バージョンのネットワーク接続が断続的に途絶えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware ESXi 5.0.x ■ VMware ESXi 5.1.x ■ VMware ESXi 5.5.x ■ VMware ESXi 6.0.x 	<p>E1000/E1000e ドライバを使用する Windows 2012 仮想マシンでは、ネットワーク接続の損失が発生します。この問題は、次の環境で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想マシンは Windows 2012 または Windows 2012 R2 です。 ■ 仮想マシンでは、E1000 または E1000E ドライバが使用されます。 <p>この問題の回避策は、E1000 または E1000e ドライバではなく VMXNET3 を使用することです。詳細については、次の記事を参照してください。</p> <p>https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2109922</p>
Cisco TMS での会議のスケジューリング	<p>24 時間以上スケジュールされた会議と重複している定例会議は予約できないことがあります。</p> <p>Bug Toolkit の ID : CSCux64873.</p>
Cisco Meeting Server ステータス	<p>会議の進行中に Cisco Meeting Server が停止したときには、[会議イベント ログ (Conference Event Log)]に [メインシステムからの応答なし (No Response from Main System)]というログは表示されません。</p>
スケジュール済み会議を無視し、アクティブコールを続ける (Ignore Scheduled Meeting and Continue Active Call)	<p>この機能は、ブリッジがエンドポイントにダイヤルしている場合にのみ機能します。</p>
システムの追加	<ul style="list-style-type: none"> ■ IPv4 と IPv6 の場合 : Cisco TMS は IPv4 でシステムを追加します。同じシステムを IPv6 で追加することもできます。その逆も同様に可能です。 ■ ホスト名と IPv6 の場合 : ホスト名を使用して Cisco TMS に Cisco Meeting Server を追加する場合は、別のシステム ID を使用して同じ Cisco Meeting Server を IPv6 で Cisco TMS に追加することもできます。
Cisco Meeting Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ 会議イベント ログには、外部ダイヤルインに関する情報はありません。 ■ Cisco Meeting Server 2.1では、リダイヤル動作の重複を防ぐために、[会議設定 (Conference Settings)] > [接続タイムアウト (Connection Timeouts)]の値を最小の 45 秒に設定する必要があります。
プライベート会議	<p>プライベート会議機能は、特定のエンドポイントのプライバシー モードによって異なります。</p> <p>注 : CTS などの既知のエンドポイントでは、予定されている会議リストに会議のタイトルを表示しないようにプライバシー設定が設定されています。</p>

サポートされる Cisco VCS のデフォルト以外のポート	Cisco TMS のデフォルト以外のポートを使用して Cisco VCS を追加した場合は、SNMP は検出できません。これは設計上の既知の制限事項であり、SNMP チケットをクリアするために、SNMP コミュニティ名を システム ナビゲータ に手動で追加する必要があります。
Cisco TMS LiveService で参加者が特定の coSpace と適切に関連付けられない	この問題は、Cisco TMS の Cisco Meeting Server との統合に使用できるポーリングまたはフィードバック メカニズムがないために発生します。Cisco TMS は、外部 (Cisco TMS による管理対象外) で coSpaces に属する参加者を正しく識別できません。 このようなユース ケースでは、TelePresence Server または MCU ブリッジを使用します。

機能	制限事項
予約招待電子メールに非マルチサイト ビデオ アドレスが含まれている	マルチサイト エンドポイントと非マルチサイト エンドポイントの組み合わせを使用して会議をスケジュールする場合に、ブリッジが関与せず、方向がダイヤルアウトであると、予約招待電子メールには、マルチサイト エンドポイントと非マルチサイト エンドポイントの全参加者の URI が含まれます。
SuperCOP ファイル	サイズが 2 GB を超える SuperCOP ファイルはサポートされていません。SuperCOP ファイルが 2 GB を超えている場合は、エンドポイントごとに個別の COP ファイルを使用する必要があります。
Cisco Meeting Server 展開でコールが接続された状態にある場合でも、エンドポイントの CUCM ダイアルのコール切断がイベント ログが表示されます。	これを機能させるには、Cisco TMS の URI とエンドポイントの 接続時間の URI が同じになるように、CUCM ルート パターンで設定を適切に行う必要があります。エンドポイントからのフィードバック ログに基づいて、会議は [接続済み (Connected)] または [切断済み (Disconnected)] に設定されます。
延長時のリソース可用性チェック (Resource Availability Check on Extension)	[延長会議モード (Extend Conference Mode)] を [自動ベスト エフォート (Automatic Best Effort)] に設定した状態で [延長時のリソース可用性チェック (Resource Availability Check on Extension)] を [無視 (Ignore)] に設定し、 [参加者に対し早期接続を許可する (Allow participants to Join Early)] を [はい (Yes)] に設定した場合、会議の参加者のうち 1 人がポイント ツー ポイント ミーティングに参加していると、予期せぬ結果が発生する可能性があります。

相互運用性

この製品の相互運用性テスト結果は <http://www.cisco.com/go/tp-interop> に掲載されています。ここでは、他の Cisco TelePresence 製品の相互運用性テスト結果も確認できます。

15.7 へのアップグレード

アップグレードする前に

冗長展開

Cisco TMS の冗長展開を利用している場合は、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレードガイド 15.7](#)』を読んでから、Cisco TMS 15.7 にアップグレードする必要があります。

14.4 または 14.4.1 からのアップグレード

Cisco TMSXE または Cisco TMSXN を使用する 14.4 または 14.4.1 からアップグレードする場合は、Cisco TMS 15.7 にアップグレードする際に、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレードガイド 15.7](#)』[英語] で説明されているアップグレード手順に従う必要があります。

14.2 より前のバージョンからのアップグレード

バージョン 14.2 以前のバージョンの Cisco TMS からアップグレードする場合は、Cisco TMS 15.7 にアップグレードする前に、『[Cisco TelePresence Management Suite のインストールおよびアップグレードガイド 15.7](#)』[英語] のアップグレード手順を参照する必要があります。

前提条件とソフトウェアの依存関係

互換性のあるオペレーティング システムとデータベース サーバの完全なリストについては、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレードガイド](#)』を参照してください。

アップグレード手順

Cisco TMS は、Cisco TMS の新規インストールと以前の Cisco TMS バージョンのアップグレードの両方に同じインストール プログラムを使用します。

注： Cisco TMS 15.7 にアップグレードする前に、Windows アップデートが最新の状態であることを確認します。

アップグレードまたはインストールの完全な手順については、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレードガイド](#)』を参照してください。

バグ検索ツールの使用

バグ検索ツールには、問題の説明と利用可能な解決策など、このリリースおよび以前のリリースの未解決の問題と解決済みの問題に関する情報が含まれています。これらのリリース ノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを使用して、[バグ検索ツール](#) に移動します。
2. cisco.com のユーザ名とパスワードでログインします。
3. **[検索 (Search)]** フィールドにバグ ID を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。ID がわからない場合に情報を検索するには、次の手順を実行します。
 1. **[検索 (Search)]** フィールドに製品名を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。
 2. 表示されるバグのリストで **[フィルタ (Filter)] ドロップダウンリスト** を使用し、**[キーワード (Keyword)]**、**[変更日 (Modified Date)]**、**[重大度 (Severity)]**、**[ステータス (Status)]**、**[テクノロジー (Technology)]** のいずれかでフィルタ処理を行います。

バグ検索ツールのホーム ページの **[詳細検索 (Advanced Search)]** を使用して、特定のソフトウェア バージョンで検索します。バグ検索ツールのヘルプ ページには、バグ検索ツールの使用に関する詳細情報があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

資料の入手方法、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用方法、サービス リクエストの送信および追加情報の収集方法については、『[What's New in Cisco Product Documentation \(Cisco 製品資料の更新情報\)](#)』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> [英語]) を参照してください。

Cisco 製品資料の更新情報には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルがすべて表示されます。この RSS フィードを登録するか、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツを直接デスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェアライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。全著作権所有。著作権©1981、カリフォルニア大学理事会。

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2018 Cisco Systems, Inc. 全著作権所有。

シスコの商標

Cisco および Cisco のロゴは、米国およびその他の国における Cisco およびその関連会社の商標を示します。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)